

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	香寿庵独自の目標を作成しており、CW会議でも話している。いつでも見られるようフロアに掲示し、理念を共有している。	事業所内に掲げる法人の理念とは別に、グループホーム独自の運営目標示して日頃の運営にあたっています。会議での検討事項も運営目標に照らし合わせて進めるよう努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域での買い物やウォーキングクラブに参加したり毎週月曜日に外周清掃も行っている。コロナ5類以降、徐々に祭りや施設内で行う居酒屋等も始まってはいるが利用者参加は未だ。解禁になれば交流を図る予定。	地域の清掃やウォーキング活動にコロナ5類以降、職員は参加するようになりましたが、利用者も一緒に参加することは時期や方法など今後の検討事項としています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	拠点を活かした勉強会を行いました、安心・安全・声掛け訓練を行い、認知症の人の理解や支援の方法を深める事を地域の人々に向けて取り組んでいる。餅つき行事も今年から再開した。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、ご利用者様の日常生活を説明し、生活上のサービスやリスクを伝えて、色々な意見を出して頂き、サービスの向上に活かしている。	地域の方々や家族も参加する運営推進会議が実施されています。行事や事故、入退所などの運営状況の報告がなされています。運営推進委員会の内容も、職員周知が図られてサービス向上につながっています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	地域包括支援センターに運営推進会議に参加して頂いている。また、加算関係等、分からない事があれば市の担当者に報告連絡相談している。	役所担当課との普段の連絡の他、コロナ禍では保健所、府警による防犯訪問などで連携を図っています。市主催の研修や会議にも積極的に参加しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	法人では身体拘束廃止宣言をしており、身体拘束委員会を発足させ身体拘束廃止宣言を行うポスターを掲示。今までに拘束の事例なし。玄関は日中は鍵をせず自由に出入り可能。(9時～17時30分)	委員会が中心となって啓発活動を実施している他、動画視聴の研修においてもフィードバックや全体共有なども行っており、職場全体での取り組みが見て取れます。日中の非施錠も確認できます。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人が実施している研修に参加、また2ヶ月に1回虐待の芽チェックリストを実施。自己のケアを振り返り、CW会議で話し合い虐待を見逃さないよう努めている。		

8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加し、今後必要とされるご家族様に説明していただけるように支援している。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の契約の時、また改定の際は十分な説明を行い、改定の際変更等あれば、ご家族に説明と同意書を交付し対応している。		
10	6 ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情ボックスの設置や苦情解決委員会（第三者委員）を開催するなど、ご利用者様・ご家族様との会話の中で色々な意見を聞いて、CW会議や運営推進会議で反映させている。	実際にあった苦情に対して、初めから終結までを記録に残して、繰り返さないように職員周知のための共有も行っています。普段の面会や電話連絡時にも些細な意見にも耳を傾けるよう努めています。	
11	7 ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	管理者はCW会議にて、直接職員の意見や提案を聞く事に努め、反映できるように努めている。また代表者は、タイムリーに管理者を通して参加した職員の意見等々聞く機会を設け反映している。	管理者の参加する職員会議や委員会などで職員からの意見が出されている事が記録からも確認できます。管理者との職員面談も年に2回行われていて、管理者は業務改善にも努めています。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、職員のやりがいに繋がるよう職員の努力や評価できる機会を設けたり、アンケートでの調査や各会議での職員の意見を吸い上げる機会を設け、職員が意欲を持って働けるような環境・条件の整備に努めている。		
13	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日本認知症グループホーム協会や行政からの外部研修にも参加して各資格を取得できるよう、セミナー等の案内をお知らせする事で、働きながらトレーニングできるよう努めている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	日本認知症グループホーム協会主催のグループホーム全国大会や支部研修会にもオンライン参加し、同業者との交流を深めながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所されたご利用者様は環境の変化に対応できなくて不安な様子が現れる。声かけや側に寄り添い話の傾聴等を行い、安心して頂くよう努めている。また、アセスメントシートに記入している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前と入所時に色々な説明を行い、面会時に色々とお話をしていき、信頼関係ができるよう関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテイクシアセスメントを行い、ご利用者様の様子観察やご家族様の必要としている支援を見極められるように努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と共に食事準備、調理、買い物や掃除等の役割を持って頂き、レクの参加を通して一緒に過ごし、支え合う関係を築いている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様を中心にご家族様、職員の三位一体の関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ以降、面会は限られたスペースやZOOMを使用したweb面会になっているが、変わらずご友人やご家族様と途切れることなく関係を継続している。	面会は玄関スペースで実施しており、以前のように居室内での面会の実施までは戻していませんが、家族と病院受診だけでなく馴染みの場所などへの外出の機会は積極的に設けています。	今後も気を抜かない感染対策の一方、家族や利用者の望む声が多い事業所内外での以前のような交流などの再開についても、時期や方法、段階など積極的な検討を続けていかれることを期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	計算問題や字合わせ等個別レクリエーションを実施の際、1人でするのではなく職員がご利用者同士繋ぎ合わせ会話をしながら一緒に力を合わせながら取り組んで頂く環境に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されたご利用者の面会や入院し退所されても退院後の行先（住まい）のフォローをご家族と情報共有を行いながら実施している。		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	<p>○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>ご利用者様に安心して生活を送って頂くには、できる事やできない事の把握、また、話の中での希望や思いを探って感じ取り、CW会議にて検討している。</p>	<p>個々の生活の様子が家族に伝わるように便りやブログを活用して発信しています。入浴の着替えや夜間着などを利用者や選んだり、続けて来たパズルやドリル、カラオケなども実施できるようになっています。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める</p>	<p>入所前に面談を実施している。その際に生活歴やこれまでのサービス利用を把握しアセスメントシートに記載し職員間で情報共有を行っている。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>毎日の生活の様子を記入し、一人ひとりの心身の状態を見極め、総合的に把握するように努めている。</p>		
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>ご利用者様の近況報告を面会時や電話で伝え、ケアプランの変更・更新時はご家族様も交え、職員共にケアの在り方について話し合っている。また、Dr.・NS・PT・CM・CWも参加して現状に即した介護計画を作成できるようチームケアを行っている。</p>	<p>計画作成担当が中心となり、カンファレンスでケアの詳細についてモニタリングもしています。日々の電子化した記録も計画に沿った記録を区別できるよう記しを付けるなどの工夫もみられます。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>センター方式を取り入れて日々の様子を記入、また、D-5シートに気づきを書く事により、介護計画の見直しや情報の共有に活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>身体的低下や認知症が進まれても、少しでも香寿庵で生活を希望されているご家族様のニーズに添えるよう、サービスを考え取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>隣の稲田公園への散歩で気分転換を図り、地元の商店街で買い物を実施、暮らしを楽しめるよう支援に努めている。</p>		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医を本人・ご家族が希望されている場合はご家族で受診して頂いている。分からないことがあればかかりつけ医に相談している。緊急時等は特養併設の診療所で適切な医療を受けておられる。	家族の協力も得ながら入居前からのかかりつけ医への受診も行っている他、眼科や整形外科など往診医では難しい専門家への受診支援も行っています。歯科の個別訪問診療なども行われています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	毎日のバイタル測定や様子観察で体調の変化に気づき、併設診療所の看護師と相談を行いながら、適切な看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された場合、面会や電話を通じて病院関係者・ご家族様と情報共有を行い、安心して治療が出来るよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、ご家族様と話し合いを行い、意向を聞きながらケアをしているが、香寿庵の生活がご利用者様にとって苦痛と思われたら、他の選択肢として特養の申し込みも可能である事を伝え、その後特養入所で退所になる場合もある。	グループホームの方針として現在は、終末期ケアを実施していません。重度化した場合や終末期ケアを望まれた場合は、併設の特養や法人内の施設と相談するなど、意向に沿った支援に繋がるよう努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルも備えており、CW会議等でも話し合い、また、法人の勉強会にも参加している。消防署主催の救命救急の講習を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設の特養の職員と共に避難訓練を年2回実施。災害マニュアルも備えているが地域との協力体制までは取り組めていない。	前回の評価結果で課題としていた災害時に関する職員周知も改めてマニュアルを活用して実施しています。併設の特養と協力して、水害なども想定した縦方向への避難誘導の訓練も実施しています。	

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>法人内で人格や尊厳の研修があり参加。またCW会議でも話し合いを行い尊厳・言葉遣いに気を付けるように話しあっている。また2ヶ月に1回虐待の芽チェックリストを実施し自分自身の対応を振り返り自己覚知に努めている。</p>	<p>計画に沿って法人内で個人の尊重や言葉遣いなどに関する研修を定期的実施しています。気になった声掛けや言葉遣いなどについても、互いに声を掛け合ったり助言できる職場環境作りにも努めています。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>家事やレクリエーションの参加の有無をお聞きしご本人に決めて頂くように努めている。自己決定が難しい方はお話の傾聴等で希望を察するように働きかけている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>毎日ゆっくりとご利用者様のペースに合わせた支援をしているが、特に排泄・入浴・食事の時は注意している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>ご利用者様はご自分で服を選んでおられ、コーディネートがおかしい場合は、尊厳を傷つけないように着替えて頂いている。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>毎食、職員とお話をしながら一緒に食事を楽しまれる。食べにくいご利用者様には刻みで提供したり、盛り付けやテーブル・トレー拭き等を一緒にを行い、毎日楽しみながらしている。時々、食べたい物を聞いてケータリングも活用している。</p>	<p>テーブル拭きなど準備から、食事の盛り付け、後の片付け、食器洗いなど役割分担して多くの利用者で行っています。また定期的に調理の機会を設け、買い物から利用者と一緒に実施しています。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養バランスは管理栄養士作成の献立で給食から取り寄せ、毎食後食べた量・水分量のチェックを行い一人ひとりの状態を考えて支援している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>朝食後や夕食後に口腔ケアしており、できないご利用者様には職員が介助を行い、歯科で定期的に口腔ケアの助言・指導を受けている。</p>		

43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表に記入しご利用者の排泄パターンを掴み、誘導や声掛けを行っている。CW会議にて、ご利用者の排泄支援方法を検討したりリハビリパンツやパットを見直しもしている。	排泄表を活用して職員間で共有しながらトイレでの排泄支援を基本としています。排便についても日々確認して、併設特養の看護職員や診療所医師の協力も得て、便秘予防にも配慮した支援を実施しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝体操をして体を動かしたり、水分量や食物繊維・ヨーグルト等食事面からも予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回の入浴支援を行っている。必要に応じてシャワー浴もあり、また、柚子湯や菖蒲湯等の季節の湯、入浴剤を使用した変わり湯もしている。入浴拒否の場合は翌日に入浴を勧める声かけを行い環境を整えている。	週に2回の入浴支援では、入浴順や個々の気分によって無理強いせずに日を変える配慮、また体調が悪い場合などは着替えや清拭などの代替ケアを実施しています。終始1対1でのケアとなっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れた様子が見られる時は、居室で休んでいただく声掛けを行ったり、不安で眠れないご利用者様には話の傾聴を行い、安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や容量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬の服薬説明書を管理、熟読周知し食べ合わせ等も把握。新しい薬を服用して頂く時は、症状の変化を確認する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族様から趣味等を聞かせて頂き、折り紙・塗り絵・書き取り・裁縫等をご利用者様に合った楽しみ事をして頂き、また、不穏・不安になられたご利用者様には散歩に行く等の気分転換の支援をしている。		

49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	徐々に外出を再開し職員と一緒に散歩や買い物に行き、また、ご家族様との墓参りや法事も行っている。	決められた曜日や時間ではなく、その日の天気や会話の流れで、日常的に周辺の公園や花壇への水やりを兼ねた散歩などにも、積極的に出ていくようにしています。家族の協力も得るなど希望の場所にも出掛けています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	香寿庵としてはご利用者の現金所持は控えて頂いている。どうしても必要な場合はご家族と一緒に使って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご本人から電話の希望があれば電話でお話して頂いている。手紙も送られてきた場合は本人にお渡ししお礼の電話をされている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに小物やお花を置く事によって家庭的な雰囲気になるように努めている。ソファもありTVを見ながら談笑しゆったりと過ごされている。	リビングのテーブル以外にも、ソファなどで過ごせる様にも工夫しています。床暖を採用して温度や湿度にも配慮した日差しも差し込む明るい空間で、季節を感じるものも飾られています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご自身の席を確保しつつ、独りになれる空間としても気の合ったご利用者様同士も楽しめる場所としてもソファの配置等工夫し確保している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使用されていた馴染みのタンス・イス・写真・置物等を置いて、居心地良く過ごして頂けるよう工夫している。また、過去には仏壇やドレッサーを置いている方もいた。	馴染みの家具や仏壇、家族写真などの馴染みのある品々を持ち込んで、配置なども個々に合った形で配置されていて、各自が居室でも居心地よく過ごせるようになっていきました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	香寿庵内で自立した生活を送れるよう手すり等を設置、一時的に車椅子が必要になっても併設の特養のエレベーターを使用。出来るだけ香寿庵で自立した生活が出来るよう支援している。また、包丁・薬品等の保管場所には鍵を設置。安全に使い勝手の良い工夫をしている		



V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない